

2005年9月15日発行

エコ・リサ通信

第51号

NPO法人 埼玉エコ・リサイクル連絡会会報
発行人 高木 康夫

入間リサイクルプラザ見学会報告

エコ・リサ研修見学会は、毎年夏に開催し 12 回目になります。今年は 8 月 23 日に参加者 21 名で入間リサイクルプラザと坂戸市環境学館いずみを見学しました。



リサイクルプラザは、入間市総合クリーンセンターに併設されているため、入間市のごみ処理についての研修からスタートしました。焼却炉などの施設内の様子は、テレビモニターの切り替えで、見学者も廊下で確認できるような設備になっています。クリーンセンターは H 8 年に 1 2 3 億円かけて竣工、3 基の焼却炉が 7 時 30 分から 11 時 30 分までの

16 時間稼働で 1 日 150 トンのごみを焼却しています。リサイクルプラザは H 1 1 年 3 月に竣工、年末年始以外は営業しています。正職員は 3 名のみ、リサイクル研究室の市民ボランティア 3 7 名と 7 団体で運営しています。

1人1日934g

入間市の人口は、1 5 万人弱で近年横ばいの状態、ボランティアの方々の減量活動・運動への取り組みや市民の徹底した分別への対応の結果、H 1 3 年度の 5 5 , 0 8 8 t をごみ量のピークとして、H 1 6 年度は 5 1 , 1 4 1 t と約 4 , 0 0 0 t 減少しています。そのため、1 人 1 日のごみ量は 9 3 4 g と微減傾向にあり、今後も 1 日 1 0 0 g 減量を目指しています。

資源化貧乏

ごみ処理にかかる経費は、H 1 3 年度に比べて H 1 6 年度は 1 億 6 千万円もアップしています。リサイクル費用として 7 ～ 8 千万円、プラスチックなどの容リ法に関して 6 ～ 7 千万円かかり、資源化を進める費用負担が大きく、一人あたりのごみ処理額は、12,444 円となっています。

ピットで火災

ちょうど、ごみを収集車がごみピットに搬入している時に、多量の放水をピット内にしていたので確認したところ、収集車のごみが火災を起こしたため、ぼや程度だったために、その場で水をかけて消し止めたということでした。環境センターで、収集中のごみがよく燃え始めると聞いてはいたものの、火災現場に遭遇することになり、あらためてライターやガスボンベの廃棄時の注意の大切さを実感しました。

焼却灰の資源化

入間市内に 12 万立方メートルの最終処分場があります。最終処分場の延命のため、焼却灰をセメントに 35% 混ぜて高熱で溶融することで、御影石のような建設資材にリサイクルし、埋め立てる焼却灰を 45% 程度減らしています。現在 66% くらい埋めているので、ごみの排出量が現在程度を維持した場合、H27～28 年頃まで使用することが可能になります。

職員が資源ごみパトロール

資源ごみに関しては、昨年有価物として抜き取りを禁止する条例を制定し、市内 3,184 ヶ所の集積所にチラシを貼って周知を徹底、職員が 7:30～8:30 までパトロールをしています。

再生品販売額は年間 460 万円

家具や小物類は、シルバー人材センターの一級家具資格者 5 名に修理を依頼。自転車の販売やフリーマーケットの収入とあわせて、H16 年度は約 460 万円の収入がありました。シルバー人材センターに 460 万円の依頼費を支払っているの収支はトントンですが、確実にごみを減らすことができました。修理した家具などは、リサイクルプラザに価格と重量を表示して、抽選ではなく、希望者に販売しています。木製の端材を使って、コマや動物のおもちゃを作り、保育所などに寄付し使ってもらっています。



第 2 日曜はリサイクルの日

リサイクルプラザでは、リサイクル研究室のメンバーが講師となって毎月第 2 日曜に、マイバッグを古布で製作指導・布ぞうり作り・生ごみ堆肥化相談コーナー・さき織り教室・おもちゃ病院・リサイクルおもちゃ作りなどの様々な教室を開催しています。

出前講座

リサイクルプラザでの体験教室はもちろんのこと、小学校や自治会などを対象にごみ分別ゲームなどの出前講座をボランティアと協力しながら職員が積極的に展開し、市民にごみ減量の理解をはかっています。リサイクル石けんに関しては、指導員制度を設け、給食センターの廃油を原料とした石けん作り講座を行い、無料配布しています。

腕のみせどころ



イスのクッションを張り替える作業は、傷んだクッション部分を取り外す事が大変で、座面を止めつける手際のよさは見とれてしまうほど。聞けば、布とウレタンが接着された座面に使う材料も廃棄されたものからの再利用とか。廃棄物の中から、新しい利用方法を見つけていくのもリサイクルプラザの醍醐味かもしれません。

坂戸市環境学館いずみ

H14 年 11 月に建設費約 1 億円かけて建設された、北坂戸駅から徒歩 15 分の住宅街の中にある木造平屋建ての施設です。展示室の梁には新潟県寺泊の古民家の一部が再利用されており、高麗川流域の生きものや風景などが展示されています。

10kwの太陽光発電システムが、約 880 万円の NEDO の補助金・グリーン電力基金助成金にて設置されており、主に施設内の空調設備の電気として利用されています。雨水再利用システムとして 20 立方メートルの貯水タンクの水をトイレ洗浄水に利用しています。

ホール床には下水再生レンガが敷き詰められているのですが、レンガの質が一定でないためにデコボコが生じており、危険防止のためにじゅうたんを上から敷き詰めているとのことで、やはりリサイクル製品の質の向上が、今後の循環型社会構築には必要不可欠とを感じる場面でした。

さき織りや布ぞうり製作などの体験教室は、小学生から一般の方まで人気の講座となっています。様々な団体が廃食油をリサイクルして石けん作りに取り組んでいます。

(報告：大前万寿美)



地球温暖化と私たちの暮らし 続編

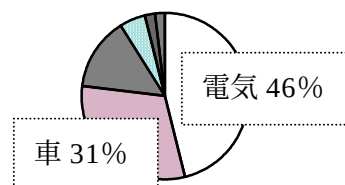
今まで、3回シリーズで、地球温暖化の進行により大変な事態になりつつあることを述べてきました。そして、地球温暖化を食い止めるには、「グリーンコンシューマーに徹する」「省エネを徹底する」ことを述べました。

今回は、省エネについて参考になることを述べたいと思います。種本は、「全国地球温暖化防止活動推進センター」の技術研修テキストと、田中優著「戦争を止めさせ、環境破壊をくいとめる、新しい社会のつくり方」を参考にしました。

1. 家庭での二酸化炭素の廃出源

平均的な標準世帯の年間の二酸化炭素排出源は、電気 46%、車 31%、ガス 14%、灯油 5%、上下水道 2%、ごみ・廃プラ・紙 2%という統計があります。

これで見ると、電気と車を省エネするのが最も重要になります。



2. 電気の省エネ

車の省エネについては、アイドリングストップとか、公共交通機関を極力使うなどがありますが、今回は電気の省エネについて考えてみます。

(1) 待機電力の省エネは、スイッチ付きコンセントを付けよう。

待機電力は電力使用量の 10%を占めるといわれています。コンセントからプラグを抜くのは案外厄介ですから、スイッチ付きのものを取り付けると便利です。

(2) 電力使用量の四天王

標準家庭の電力使用量は、エアコン、冷蔵庫、照明、テレビの四つで3分の2を使用すると言われています。ところが最近、この四種類の家電製品はメーカーの努力により、ここ数年著しく省エネの製品が出回るようになりました。

7～8年前のものに比べ、例えば、冷蔵庫とテレビは 80%減らして 20%しか電力を使用しないものが出来ましたし、エアコン、ビデオ、洗濯機も半分程度の電力使用量のものが出来ました。したがって、冷蔵庫やテレビは 10 年前のものだったら、買い換えると電気量の減少により、6、7年で買った値段の元が取れるようになります。

また、照明は白熱電球を蛍光型の電球に買い換えると 5 分の 1 の電力で済み、値段は高いのですが、寿命が 8 倍くらい持ちますから、結局お買い得です。

(3) 買い替えによる LCA は

ここで気になるのは、「現在動いているのに廃棄して買い換えるのは、品物を作るときのエネルギーなど LCA(ライフサイクルアセスメント)から考えると、かえってエネルギーの無駄遣いになるのではないか、と言う懸念です。

これについては、例えば冷蔵庫の場合、買ってから12年使うとして、その間の電気エネルギーの使用量に対して、冷蔵庫を作るための素材(鉄、銅など)の採掘・精錬のエネルギーは7%、製品組み立てが0.6%、輸送が0.3%、廃棄が0.3%で、合計8.2%です。まして、冷蔵庫に使われた素材をリサイクルして原料にすれば、鉱石から採掘精錬するエネルギーの半分以下ですから、LCAに掛かるエネルギーは殆ど気にする必要がないことが判ります。この他、建物の省エネなどもありますが、今回はここまでにします。

(土淵 昭)

容器包装リサイクル法審議会に参加して

容器包装リサイクル法は、平成7年に公布された。法には10年後の見直しが規定されていて、昨年(平成16年)7月検討のための審議会がスタートした。中央環境審議会の「廃棄物・リサイクル部会」の拡大審議委員が加わり、漫画家の赤星たみ子さん、容り法の改正を求める全国ネットワークの服部美佐子さんなどとともに、私も委員として参加している。

7月に第1回の会議があり、事務局である、環境省のリサイクル推進室からの説明を聞いた。そのとき、13年度から、市町村の容器包装にかかわる費用の調査をしているという報告があった。これは、毎年続けられ、審議のための貴重な資料となっている。その後、月1回のペースで、経済産業省と合同のヒアリングがあった。市町村、有識者、資源再生業の現場の話などがあり、6回目には、公募市民団体からの発表を聞いた。F O Eジャパン、全国牛乳パックの再利用を考える連絡会、可児市生活学校、びん再使用ネットワークの4団体の、短い時間ではあったが、実績がともなった貴重な報告を聞くことができた。これらの報告や事務局からの説明、話し合いの中身はテープ起こしに近い状態で、すべて公開されている。内容が多すぎるが、どんな感じですかとすすめられているのかを飛ばし読みでよいので、ちょっとのぞいてみてほしいと思います。(感想をお聞かせください。)

その後、論点整理の会議があって、各省に分かれて、月2回のペースで審議が続き、6月末にそれぞれ「中間まとめ」が発表され、8月上旬までパブリックコメントが、募集された。次の審議会は9月15日で、寄せられた意見を考慮して、さらに具体策を審議していくことになる。

容り法は「ごみ」に関して上流の容器包装を選んで使うメーカーに製品設計から処理を配慮する動機付けとして再商品化費用の分担を求めた画期的な法律であり、その効果はかなり出ている。

今回の議論の焦点は、集められた容器包装の資源化費用が、かなり、かかっている、誰が負担するか・・・というところである。それを考える上でのデータは、

平成 15 年度 市町村の容器包装の資源化にかかわる費用は 3000 億円(収集運搬 1700 億円、選別保管 1300 億円) そのうち可燃、不燃として処理するより、多くかかっている分が **380 億円**と算出されている。この他に小規模事業者分の再商品化(リサイクル)費用を市町村が出しており、**25 億円**ほどである。

これに対し、特定事業者(中身メーカーなど)が出している再商品化費用は(財)日本容器包装リサイクル協会が集めている。平成 15 年度は **400 億円**となっている。また、容器包装にかかわるその他の支出(簡易包装の開発費、店頭回収費用など)が **136 億円**の支出となっている。

平成 15 年度に合計で **425 億円**だった再商品化費用は、16 年度は **475 億円**に増えた。その中で「その他プラ」がその大部分である 374 億円かかっている。人類史上新しい材質で、その資源化方法が定まっていなかったことが、根本的な原因ではあるが、市町村が集める量に対し、設備が少ないため高止まりしてしまう傾向にある。

ペットボトルは逆に設備が多くできたために、集まる量が少なくて、設備の稼働率が低くなっている。

チェーンストア協会がレジ袋の有料化を打ち出して議論を呼んでいる。

私は消費者(コンシューマー)責任の問われ方が今まで不十分だったと思っているので、このことについて主に発言してきた。

いまひとつ現実には即していないために社会的コストが多くなってしまっている面も感じるので、改正されて少しでも良い方向に進むことを願っている。

(報告：園田真見子)

エコ・リサ交流集会 2006
oooooooooooooooo

循環型社会の費用はどうする、どうなる!

午前の部：パネルディスカッション「改正容リ法の費用はどうする、どうなる!」

国は、現在容器包装リサイクル法の改正に向けて審議中です。そこで、環境省、地方自治体、企業及び市民の代表の方にお集まりいただき、熱くご意見を述べあって頂きます。

第 1 分科会「ごみの処理費は誰が払うのか」

各自治体の税収は右肩下がりとなっている現在、ちっとも減らない処理費をこのまま税金で賄い続けてよいのでしょうか、埼玉県内の実情をデータで示します。

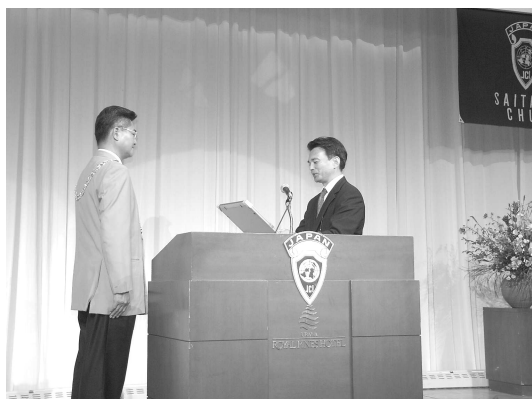
第 2 分科会「どうなっちゃうの? レジ袋! -レジ袋有料化が、容リ法改正で急浮上-」

レジ袋削減が、ストップ地球温暖化のための有効策となるには、流通担当者と意見交換

第 3 分科会「京都議定書簡単クリア、省エネ・新エネ活用術」

社団法人埼玉中央青年会議所 創立10周年記念式典開催 エコ・リサより感謝状贈呈

2005年9月3日（土）浦和ロイヤルパインズホテルを会場に（社）埼玉中央青年会議所（門崎由幸会長）創立10周年記念式典が開催されました。



同会議所は「心の豊かさが変化を創る行動しよう未来のために」を2005年度のスローガンに掲げ、市民・行政・企業・NPO団体の方々と様々な地域活動を続けてきました。

創立当初より NPO 法人埼玉エコ・リサイクル連絡会の環境活動に深い理解と協力をいただき多数の理事及び運営委員の輩出や会議室などの事務機能の無償提供をいただいております。また永年に渡って環境問題に真摯に取り組まれ環境市民として活躍されています。式典では JCI クリード、JC 宣言など様々なセレモニーの中、当会よりこれまでの功績と感謝を讃え「感謝状と記念品目録」が平田 繁監事より門崎由幸 10 代目会長に贈呈されました。

JCI コリアソウルとは姉妹締結し国際交流を展開、ソウルの申会長は「これからも深い友情を」と熱く語られました。

10 周年記念事業では、以前エコ・リサ通信でも紹介しました、「子どもチャレンジ教室」が報告されました。また、会場には子どもチャレンジ教室に参加した小学生の子どもたちが整列し、代表が感想文を読み上げ感謝の気持ちを伝えました。

まちづくりビジョンでは、『誰もが憧れ、誇れる、躍動する街へ』を目標に掲げ、

「無限の可能性に向けて、新たな 10 年に挑戦します」との門崎会長の言葉には、青年としての熱きエネルギーを感じました。（報告：宮田尚美）



よくわかる容器包装リサイクル法⁷

「集められた容器はどのようなしくみでリサイクルされるのか」

講師：土居敬和氏（日本容器包装リサイクル協会前広報部長）

日時：2005年10月20日（木）10時～12時（受付9時15分～）

会場：リリア総合文化センター中会議室（11階）

申込：エコ・リサ事務局 FAX048-827-1268 アドレス info@fuyo-hin.com

定員：40名 10/1より受付 参加無料です。

賛助団体のご紹介

(株)谷澤商会	富士見市
(株)大任工務店	熊谷市
(株)さしま通商	幸手市
(株)清水金物	秩父市
(株)相馬建設工業	川口市
(株)高読	幸手市
吉見商事(株)	熊谷市
森田光一さん	東松山市
読売旅行春日部営業所	春日部市
(社)日本青年会議所 関東地区埼玉ブロック協議会	…順不同…
ご支援・ご協力ありがとうございます。	

エコ・リサ連絡会 入会のご案内

NPO法人埼玉エコ・リサイクル連絡会は、幅広い環境保全型のリサイクル活動を、市民団体だけでなく、製造・流通・再生資源などの事業者、各種団体・個人が参加し、県や市町村行政とも、ネットワークを創ってすすめています。

会費（年間）	個人会員	2,000 円
	団体会員	3,000 円
	賛助会員	10,000 円（1口）

お願い：エコ・リサでは、常時会員募集を行っています。よろしくお願いいたします。

郵便振替口座番号 00110-7-764571 加入者名 NPO 法人埼玉エコ・リサイクル連絡会

埼玉りそな銀行 大宮支店 普通 5392559

名義 特定非営利活動法人 埼玉エコ・リサイクル連絡会法人

＊ 会費納入の際のご注意

郵便振替で入金される方は、お手数ですが通信欄に新規会員あるいは〇〇会員□□年度分と明記の上、お振り込みをお願いいたします。（事務局）

事務局のご案内

〒330-0846 さいたま市大宮区大門町 3-205 新井ビル303号室
（JR大宮駅東口から徒歩8分）

FAX 048-642-6163 <http://www.townnavi.info/eco-risa>